

騒ぐだけ騒いでいつの間にか消えていく話題が多い中で「フッ化物利用」(以下文中「F利用」)のように長い間、歯科内外の関心事であり続けている課題は少ないのではないのでしょうか。

しかも、歯科界と「F利用」との関係は、絶えず変化し、多様な反響を受け続けているように見えます。

この、「古くて新しい」テーマである「F利用」をめぐる変遷は、その時々、行政、反対者を含む市民、そして、歯科医師自身の姿勢を通して、口腔の健康や歯科医療、保健に対する社会の評価や疑問を端的に示す、検証の歴史と言えるのではないのでしょうか。

現在、歯科医師会は、専門団体としての信頼の回復を基本テーマとして組織改革に取り組んでいます。

改革の出発点には、プロフェッショナルとしての歯科医師の役割のうち、個人では十分に果たせない社会的責務を補完するという歯科医師会の組織としての根源的な役割(使命)が、今こそ、問われているとの認識が必要です。

21世紀の国民健康づくりを目指す、「健康日本21」

訴えた。最後に大正ロマン漂う山形県銀山温泉で外国人女将として有名な藤ジニさんの「ニッポン人には日本が足りない」と題した記念講演が行われた。日本人よりも日本の伝統文化に

計画での位置づけを始め、8020推進特別事業による予算的なバックアップにより、他疾患に類を見ない一次予防の有効な手段である「F利用」という社会選

① フッ素・昨日・今日・明日

今なぜフッ素か

が社会に受け入れられ始めたのかを、冷静に考察してみるのがあります。

歯科界がこれまで地域保健活動や診療活動を通して社会に還元しようとしてきたことの意味を自問し、役割を主張していく上での有力な手がかりとしての「F利用」といわけ、組織の機能としての「F利用」を考えていくことは避けて通れない過程であると言えます。

今回、地域保健委員会として、制度改革の激しい変動の流れの中で今後の歯科保健活動の進むべき方向を模索する上で、社会が求める予防中心の歯科医療、保健システム構築、換言するならば「かかりつけ歯科医」機能の基盤としての「F利用」のあり方を、全国的な状況分析と、地域活動の現場の事例を通して展望し、具体的な実践のヒントを幅広い角度から提起できることを願い、本欄の連載を企画しました。

内容に対するご意見を地域保健委員会にいただければ幸いです。
(文責・日歯地域保健委員会)

詳しいジニさんの講演を通して改めて「日本人」を考えさせられた。

また、会場には100年を振り返る貴重な資料が展示された他、「山形県歯科医師会100年史」も発刊

された。

2日間の記念大会を機に山形県歯は、「温故知新」を心に刻みながら新たな第一歩を踏み出した。
(山形県歯科医師会広報担当理事・三浦祐司)

歯科医療ルネッサンスを切りひらき歯科界をリードする総合学術情報誌

月刊 歯界展望 DENTAL OUTLOOK

Vol.106 No.6 12月号のおまじ

- Angle 医院継承を考える一有事における対応マニュアルの作成一 / 高橋洋樹・丸山文章・土屋朋未・佐藤英彦・平岡 修・山内昌浩 京面尚吾・矢野収一・池森由幸
- 今、ペリオを再考する 第3回 治療にかかると前に——モチベーションの向上 / 佐々木 猛・山内 忍・水野秀治・佐々生康宏・松井徳雄・浦野 小野善弘
- 続・削らない治療を実践する一読者の質問に答えて 第12回<完> 製品選びのポイント / 猪越重久
- インプラント治療のエッセンス 第6回 予知性の高い根面被覆術(CITグラフ)

医歯薬出版●出版案内

〒113-8612 東京都文京区本駒込1-7-10 TEL 03-5395-7630 http://www.ishiyaku.co.jp/

歯科衛生士が身につけたい外用塗布剤の知識と実践方法

月刊「アトルハイパー」別冊

ペリオ・カリエスの予防に活かす

抗菌薬・殺菌薬とフッ化物

花田信弘・新田 浩 / 編

■B5判・136頁・オールカラー ■定価2,940円(本体2,800円 税5%)

フッ素・昨日・今日・明日 ②

日本におけるフッ化物利用の普及

された京都市山科地区の水道水フッロリテーションは日本のみならずユーラシア地域でも初の実施例でした。しかしながら、その後いくつかの地域で生じた水道水フッロリテーション実施の取り組みが頓挫したり、組織的な反対運動が生じたことなどにより、フッ化物利用に対する忌避感が強まり、普及は大幅に遅れ、日本のおおの多きは国際的にも有名になってしまいました。1980年代半ばまでのことです。

●今日

このように、我が国ではフッ化物利用の「冬の時代」は長く続きましたが、1990年代後半から情勢は徐々に変わり始めました。その要因として、日本歯科医学会の見解やフッ化物洗口ガイドラインが出たこと、「健康日本21」の目標値にフッ化物利用が位置づけられ、厚労省の8020運動推進特別事業が都道府

県行政における推進エンジンの役割を果たしたこと、一部の地域で地道な取り組みが続けられてきたことなどが挙げられます。

現在、日本では水道水・食塩のフッロリテーションやフッ化物錠剤などの全身応用は残念ながら実施されていませんが、局所応用の普及が進みつつあります。

フッ化物配合歯磨剤が全歯磨剤中に占めるシェアは、1980年代半ばは10%程度でしたが2004年は87%まで増加し、全国小中学生の9割近くが使用しています。

フッ化物歯面塗布を行う人も増え続けており、4割強の小児で実施経験があり、地方自治体の約6割・歯科医院の約4分の3が実施しています。

フッ化物洗口の実施は、これらに比べると低く、学校や園で実施している子供は全国の5%弱程度ですが、長期間実施している地

域では、小児のう蝕の減少効果のみならず成人期における喪失歯の抑制効果が確認されるに至っています。

●明日

日本におけるフッ化物利用の「冬の時代」は去りました。このことは、他の保健職種や一般住民の関心の高さを招き、歯科医師は専門職としてこれに添えていく必要性が高まってきたことを意味します。今までは社会全体にフッ化物利用に対する暗黙の忌避感があつたので全体の空気として「君子危うきに…」といった対応で済まされたものが、そうは言っていられないくらいつつあるのが現状と言えます。その意味で、地域における地道な活動の必要性はますます高まってきていると言えるでしょう。

次号から、その実践例として、群馬県・秋田県・神戸市における取り組みを紹介いたします。(文責・日歯地域保健委員会)

本稿では、日本のフッ化物利用が辿ってきた経過(昨日)、普及の現状(今日)、今後の展望(明日)を概観します。

●昨日

日本でフッ化物利用の取り組みが始まった時期は、世界的にみて決して遅くありません。斑状歯研究は1920年代から始まっていますし、1952年に開始

器材からみるオーラル・ケア
私はこの製品をこう使っています



最近、オーラル・ケアという言葉がTVのCMや新聞雑誌等で頻繁に見られるようになった。また、

著者 内山 茂
発行 (株)ヒョロン・パブリッシャーズ
電話 03・3252・1920
定価 本体4,800円＋税

ドレッジストア等では様々な関連グッズが販売されており、お口の健康についてかなり関心が高まってきていることを実感する。

エシヨナルケアにおいて、使用する器材が各メーカーから様々な種類が販売されており、その選択には頭を痛めているところである。本書の副題でもある「私は、こう使っています」が示すとおり、臨床現場で、実際の製品約60数品目の使用方法が細かく紹介されており、非常に役立つ、まさに実践の書である。

ア、PMT-C器材、スケーラー関連、う蝕診断、歯周病関連、口臭関連、在宅・有病者ケア。第2部では、ホーム・ケア、歯磨剤、歯ブラシ・フロス、歯垢染め出し剤、フッ化物関連、歯周病関連、ドライマウス、義歯洗浄剤となっている。とにかく、この書があれば、自分の診療所にあった「オーラル・ケア」の器材、やり方が見えてくるオススメの1冊である。(S)

歯薬出版●出版案内

T113-8612 東京都文京区本駒込1-7-10 TEL.03-5395-7630
http://www.ishiyaku.co.jp/

臨床の大切な勘どころが正しくやさしくわかる

無歯顎補綴の臨床Q&A

■新春対談
補綴の未来 / 佐々木啓一・古谷野 潔

■誌上座談会

隔月刊 補綴臨床

「歯科モニター」の役目は患者代表としての『オンフスマン』。そして、よりよい歯科医療のための応援団

である」という言葉をモニターの皆さんからいただいた。年間を通した歯科モニター存在により、幅広く

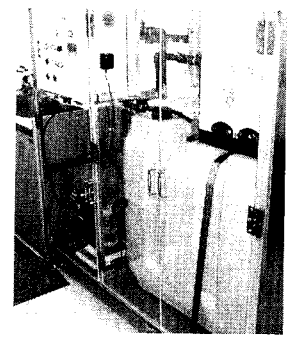
本音の意見を取り入れていきたい。 (熊本県歯科医師会広報担当理事・宮坂圭太)

③ フッ素・昨日・今日・明日

群馬県のフッ化物利用の現状

健康日本21の地方計画として群馬県では「元気づくま21」が制定され、その施策の中でフッ化物の効果的方法としてフッ化物利用を勧めています。

県民の行動目標としてフッ化物歯面塗布やフッ化物配合歯磨剤の啓発に加え、いち早く「フッ化物洗口の実施者を50%以上」という数値目標を立て、この目標達成のために8020運動推進特別事業の一環として「幼若水久歯う蝕予防事業」としてフッ化物洗口モデル事業」を行いました。市町村事業としてフッ化物歯面塗布事業の実施地区で、関係者の協力が得られた施設条件



地域保健委員会

で募集し、当初5施設で実施しました。平成15年に厚労省より「フッ化物洗口ガイドライン」が通達され、この通達がフッ化物洗口の普及啓発に大きな推進力になりました。

そして、群馬県歯でも「今回のフッ化物洗口ガイドラインの通達は時代のニーズにあった内容と認め、群馬県歯としてもこれを行うための柱として推進啓発していく」と理事会決議し、公衆衛生委員会では地区からの要請に対して学術的・技術的支援をする体制を整え対応しました。

予算削減されている市町村では、マンパワーや経費が県負担のこのモデル事業に応募してフッ化物洗口事業を開始し、自治体事業として定着し実施が拡大した地区もありました。

しかし一方では、「市町村合併」がこの事業に大きな障害になった地区もあり、「住民サービスの公平性」の名目の下に既存のフッ化物洗口事業が中止になってしまったこともありまして、8020事業でフッ化物洗口事業のきつかけができ、ガイドラインの通達で進展し、市町村合併に影響された現状でした。NPO法人日本むし歯予防フッ素推進会議が2年ごとに行う全国のフッ化物洗口の施設・洗口人口調査の最新の2004年末現在の調査結果で、群馬県ではこのモデル施設も含め計44施設で2,061人が実施しています(現在では65施設)。これからも普及啓発に努めたいと思います。また、県内の市町村の特徴的な活動として、歯科保健事業が県内で最も盛んでその実績が高い下仁田町では、地産高岡甘菜歯の指導、8020推進財団の助成、厚労省科学研究班の技術支援や日本口腔衛生学会の学術支援を受け、同保健センター会館内にフロリデーション装置(写真)を完成させました。常時0.8ppmのフッ素濃度にコンピュータ制御された水が館内の水道口から出て、住民の方々が自由に飲め、フロリデーションを体験してもらい、地域限定のフロリデーションに取り組んでいます。全国からもその成果が期待されています。(文責・日歯地域保健委員会)



健康長寿の実現をめざして ~21世紀に求められる歯科衛生士の役割~

日時:2006年1月15日(日) 10:10~16:00 会場:千代田区公会堂 千代田区九段南1-6-17 交通:東京メトロ東西線、半蔵門線、都営新宿線「九段下駅」下車徒歩3分

- 定員:400名(定員になり次第締切り)
参加費:8,000円(昼食代、消費税込)
申込み:下記の「参加申込書」に必要な事項をご記入の上、Faxまたは郵送にてお申し込み下さい。「参加申込書」の到着後、事務局から「参加費振込案内書」を送付いたします。

ライオン歯科衛生研究所 統括部 研修会事務局 伊藤 〒130-8644 墨田区本所1-3-7

Fax.03-3626-4182 Tel.03-3626-6490

基調講演 健康長寿と免疫 奥村 康先生 (順天堂大学医学部免疫学講座 教授)

講演 1. 生き生きライフは歯と口の健康から 川口 陽子先生 (東京医科歯科大学健康推進歯学分野 教授)

Registration form with fields for name, address, profession, and contact information.